

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和2年12月2日（水）
- 2 確認箇所
1～4号機タービン建屋東側
- 3 確認項目
千島海溝津波防潮堤補強工事等の状況

4 確認結果の概要

9月25日にL型擁壁等の据付作業が完了した千島海溝津波防潮堤については、排水路整備や舗装工事等が進められるとともに、日本海溝津波防潮堤※¹の先行工事として千島海溝津波防潮堤の補強工事が行われることになっていることから、千島海溝津波防潮堤周辺で行われている工事の状況を確認した。（図1）（前回確認：10月27日）

- ・千島海溝津波防潮堤の補強工事は、防潮堤（T.P. 11.0m）を超える津波が来た場合でも被害が最小限になるよう、防潮堤の海側（海側での補強が困難な箇所は山側）を人工地盤材料（石炭灰混合資材※²）の盛土等で補強するものであるが、現地での作業は、まだ着手されていなかった。

（写真1）

東京電力に確認したところ、現地での工事着手に向けた準備を進めているところとのことであった。

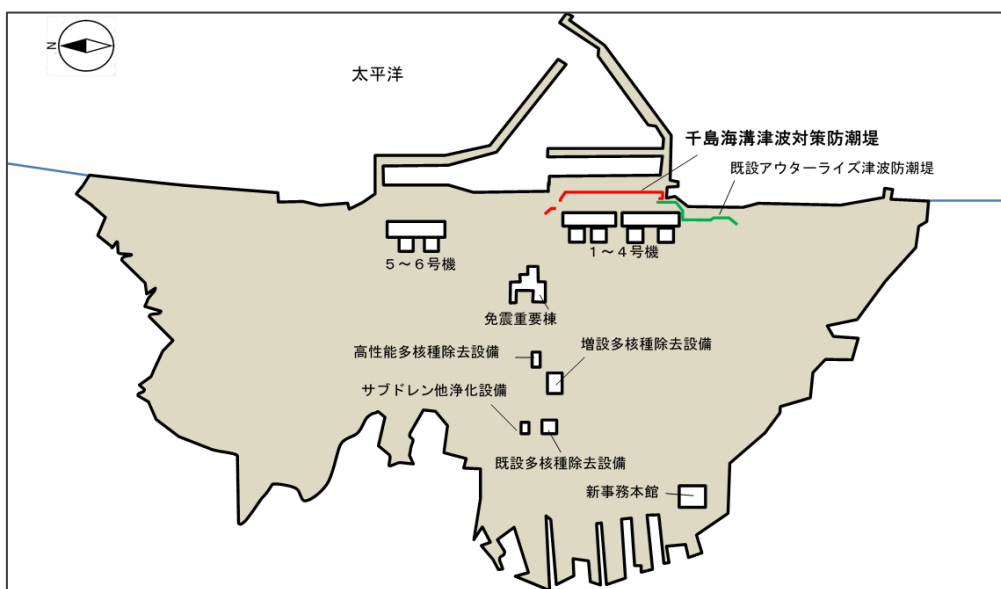
- ・前回確認時には工事途中であった2号機タービン建屋東側ヤードの舗装工事は完了し、今後作業が開始される1号機原子炉建屋残置カバー解体工事において取り外しされた部材を小割するヤードとして利用するため、敷鉄板を敷設する作業等が行われていた。（写真2）
- ・同様に前回確認時には工事中であった3号機タービン建屋東側ヤードの舗装工事も完了しており、現在は、4号機タービン建屋東側ヤードの地盤整備が行われているところであった。（写真3）
- ・また、前回確認時に、3～4号機タービン建屋東側で行われていた排水路の整備はほぼ終了しており、干渉物であった配管の保護工事が行われていた。（写真4）

※1 日本海溝津波防潮堤：令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力は、①浸水を抑制し津波の建屋流入に伴う滞留水の増加を防止すること ②重要設備の津波被害を軽減することにより福島第一原子力発電所全体の廃炉作業が遅延するリスクを緩和すること ③早期に実現可能な対策を

優先すること を切迫した日本海溝津波への対応方針として、千島海溝津波防潮堤の補強工事を先行実施し（工事期間：令和2年度）、その後、日本海溝津波防潮堤を新設する（工事期間：令和3年度～5年度）としている。

津波規模 千島海溝津波：T.P. 10.3m 日本海溝津波：T.P. 11.8m

※2 石炭灰混合資材：石炭灰とセメントを混合した人工地盤材料であり、福島第一原子力発電所に隣接して建設されたバッチャープラントで製造され、現在、メガフロート津波等リスク低減対策工事において活用されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

千島海溝津波防潮堤海側（1号機タービン建屋側）の状況（北側から撮影）



(写真1-2)
千島海溝津波防潮堤海側（4号機タービン建屋側）の状況（南側から撮影）



(写真2-1)
2号機タービン建屋東側ヤードの状況
（前回(10月27日)南西側から撮影）



(写真2-2)
2号機タービン建屋東側ヤードの状況
（今回(12月2日)南西側から撮影）



(写真3)
4号機タービン建屋東側ヤードの状況
（北西側から撮影）



(写真4-1)
3～4号機タービン建屋東側の排水路
整備等の状況
(前回(10月27日)北側から撮影)



(写真4-2)
3～4号機タービン建屋東側の排水路
整備等の状況
(今回(12月2日)北側から撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。